

手袋型と簡型の2種類があり、お湯を入れて使う。80度Cのお湯を入れて約4時間使用することで血行を促進し、採血時に「血管が見えづらい」「血液が採取しづらい」といって使う。80度Cのお湯を入れて約4時間使用できる。指先や腕を温めることで血行を促進の使い勝手を追求している。2018年の発売から2年間で12の医療機関に導入された。販売を担当する同社は開発にあたりニーズとシーザスのマッチングを行った。千種社長はツプなど、医療現場での使い勝手を追求して販売から2年間で12の医療機関に導入された。販売を担当する同社は開発にあたりニーズとシーザスのマッチングを行った。千種社長は

**医工連携で
行こう!**
成長市場に挑む

成長市場に挑む



三田理化メディカル（東京都文京区、千種潤也社長、03・3812・5394）が販売する「採血検査用やわらか湯たんぽ」は、冬場の採血検査で指先などの血行を促進して採血しやすくするアイデア製品だ。関東の医師の要望に大分のモノづくり企業が応えるという地域を越えた連携で開発した。

採血検査用湯たんぽ

「医工連携はチームビルディングから」と語る。同社は医療機関向けの調乳システムや洗浄設備などを手がける三田理化工業（大阪市北区）の関連会社。医療機関向け市場調査と商品開発ノウハウを持つ千種社長は各地の医療機関にも代り、医療現場のニーズ発表会に参加して情報を収集する。関連モノづくり企業の連携を行う。企業だけではつかめない医療現場の知識を生かし、実用を想定して医療機関のニーズを分かりやすくモノづくり企業に伝つ。



指先の血行を促進する「採血検査用やわらか湯たんぽ」の手袋型

ニーズ把握 製造企業に伝達

A close-up photograph of a red leather arm guard with a circular emblem, worn on a person's upper arm. The arm guard is made of a textured red leather and features a circular emblem in the center. The person's arm is positioned diagonally across the frame.

皆案や提案を出すなど
両者の仲介役として連
携を加速させる。

経験を共有

実際、「医工連携に
はモノづくり企業と医
療機関に加え、製販会
社の役割が大きい」
(千種社長)。経験を
基にした助言や販売戦
略がなければ医療機器
の製造・販売は難しい。
「医療現場が示した使
用想定だけだと、深く
考えずに届け出や認証
をしなければと思いこ
んでしまう」(同)。こ
とがあるそうだ。

以前、患者のシャワ
ー浴補助製品を発売し
たことがあった。しか
ず、ある患者が「この製
品は、お風呂場で落水の
原因にならないか」と
心配して購入をやめ
てしまった。この件で、
製品の安全性を再検討
する必要があった。

そこで、製品の開発者
は、製品の安全性を確
認するため、自らお風
呂場で落水実験を行
った。その結果、製品
は落水しても安全である
ことが確認された。

この経験から、製品
の安全性を常に意識す
ることの大切さを学ぶ
ことができた。

「感染症から身を守る」という新たな価値観が消費者に芽生えた。三田理化メディカルの千種社長は「これを好機だ」と捉える。今後も自社を通じて医工連携の促進とともに、新製品投入を目指す。